

三友会だより

一期一会の桜を思う

石川 智信

「来年の春はもう見ることはできないかもしれない。そう思うと眼前の桜が、例年とは比べようもなく美しく、愛おしいものに思える。そしてそう感じることで自分感動している」。肺がんと戦い続けている鳥越俊太郎氏が語っていた。私自身を含め多くの人々にとって、今年の桜がひょっとしたら見納めかもしれない。実際に今年も、花の季節を待たずして多くの患者さんたちが旅立っていった。そのお一人お一人を思い出しながら文化公園の桜を見上げると、まぶしくそして切なげにきらめいていた。

毎年この時期になると、妻が退院して間もない頃、文化公園の散歩道でのある出来事を思い出す。にこにこ木々の根元を見つめていた妻が杖で指し示す場所を見やると、かわいらしい新芽が顔を覗かしていた。ゆっくりと観察していかなければ気付かない、小さな春の息吹であった。しかし翌週同じ場所で、今度はベソをかいて佇んでいた。公園の一斉芝刈りで新芽も刈り取られてしまったらしい。数週間後、満面の笑みを浮かべ杖を振りかざしながら私を呼んだ。同じ木の根っこに再び木の芽が吹き出していた。その時の妻の喜びようは尋常ではなかった。おそらくいったん消えかかった命の再生を、自分の運命と重ね合わせて勇気づけられたのであろう。しかしながらまだあの頃、自分の感動を表現する言葉はほとんど失われたままであった。手振り身振りで現わす感情の表現が、私には痛々しかった。

今年の2月末から2週間、妻はイタリアを旅行してきた。新婚旅行でハワイに行って以来の海外旅行である。一泊旅行すらままならない私が妻と長期間旅行できるのは、診療所をたたまない限り無理であろう。このままでは妻があこがれるイタリアの小さな村での散歩や、美術館巡りを夢のままで終わらせてしまうという危機感が私にはあった。医師国家試験が終わって時間のできた息子に、カバン持ちをさせて送り出した。

帰国した妻は、歴代の名だたる名画に圧倒されたことや、トスカーナの田舎の丘陵地帯の美しさを興奮さめやらない面持ちで語ってくれた。「わ・た・しはまだまだ修行が足りない、素人よ」、「すごいよ、綺麗よ、夢のようよ」などと、片言ではあったが確かに今回は感動を言葉で表現していた。それが何よりも私には嬉しかった。妻が感動し、その気持ちを言葉で現わせるようになったことに涙が出る思いであった。

毎年咲き続ける桜にもやがて寿命はくる。今年の花を愛でている私たちもまた、瞼の裏でしか桜を見ることができない時がやってくる。必死に、しかし素直に、毎日感動して生きている妻の生きざまを見ていると、今ある当たり前の風景がいつ消えるかもしれないことに恐怖を感じるよりは、そのありがたさに感謝して生きる自分でありたいと思う。散り始めた桜の花びらのひとひらを手にしながら、一期一会の出会いの大切さを改めて考える春であった。



『音を楽しむ と書いて音楽』

いしかわ内科医師 山田琢也

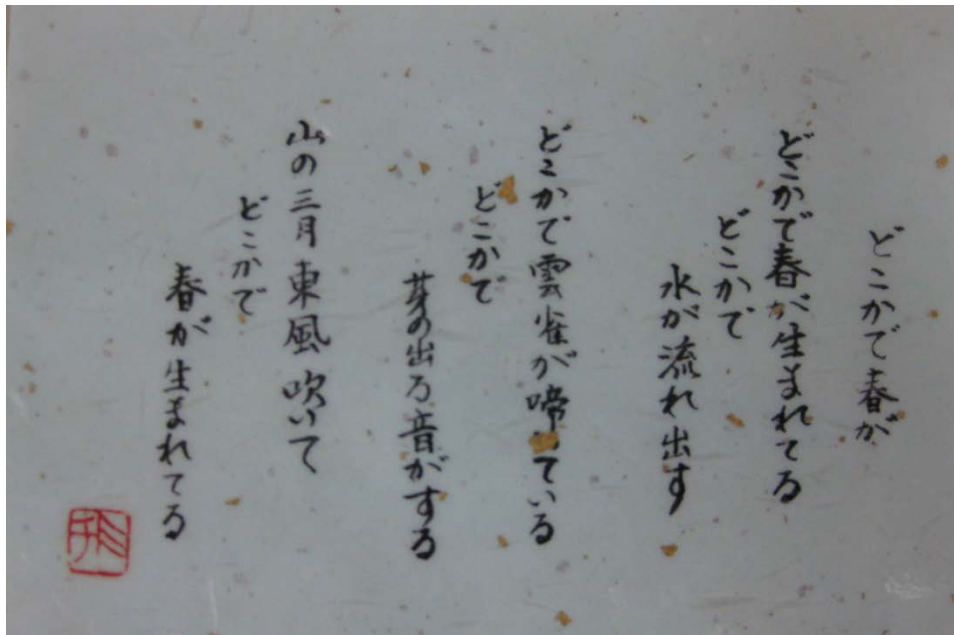
日本の音楽・ピアノ界には追い風が吹いている。2009年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで辻井伸行さんが日本人として初優勝。2010年ジュネーブ国際音楽コンクールピアノ部門で萩原麻未さんが日本人として初優勝。2011年グラミー賞で上原ひろみさんが「ベスト コンテンポラリー ジャズ アルバム」を受賞。

私はクラシックやジャズには明るくない。するのは専ら邦楽ポップスのピアノ弾き語り、それも趣味レベルに過ぎない。いつでも一人で好き勝手できるのと、アコースティックな音色・雰囲気なのが私にはいい。3歳からピアノを始め、当時は男の子がピアノを習うのは女々しい・恥ずかしいと勝手に思い込み小学6年でやめた。ここまではよくある話だ。私がちょっと変わっているというか、あとから考えるに幸運だったのは、中学2年時の音楽の先生が男の先生で、友人数人を交え歓談していた時「たくや、お前弾けよ」みたいな空気になり、弾いたが、これが思ったほど全然弾けなく不本意だった。この事が、受験期が終わったら、また弾こうという動機を与えてくれた。5年後、大学生になり、弾き語りを始めた。以後も社会人になって、忙しかったり体調が悪くなく弾いていない時期もあったが、例えば80年代の曲なら、「レイニーブルー」(徳永英明)、「I LOVE YOU」(尾崎豊)、90年代なら「ANSWER」(槇原敬之)、「ずっと2人で」(GLAY)、2000年代に入ると「さくら(独唱)」(森山直太朗)という具合に、好きな曲の楽譜を、講師の先生の所へ持っていき、あくまでも弾き語り一本というスタイルで来た。女性ボーカル曲で弾き語りしたのは「Wish(川嶋あい)の「ふたつ星」のみで、いきものかりの「ありがとう」などもとてもいい曲と思うが、なにせコブクロ、エグザイル等取り組みたい男性ボーカル曲が目白押しで、手が回らずじまいだ。院長が下さった転機となる一言のお蔭で、昨年久々にピアノを再開し、発表会等で披露できる機会にも恵まれた。周りの方々から契機をいただき新たに関われた曲もある。根気が要るが今年も練習に励んでいて、また、事務長からは、知る人ぞ知る「かすみフレンドコンサート」にも参加する機会を頂いた。

大学時代は彼女もいない期間が殆どで部活以外は実家でピアノ弾き語りに時間を費やす事が多かったし、社会人になっても仕事に適應できない事を幾度か繰り返してしまった中で、ピアノだけは辛うじてしていた時もあり、人生が思うようにいかなかった時の産物が今は重宝がられるので、人生はわからない。楽器をされていた人は是非また再開してみませんか？新規に始めるのもいいですね。歴代の講師の先生方、現在の先生、両親に感謝です。



祇園「このひと」



「この歌いいでしょ！私、大好きなの」そう言って何枚もの歌の歌詞を書いた紙を見せて下さるのは、頼ミチさんです。美しい文字はもちろん頼さんの手書きで、小さい用紙に繊細な文字が味わい深く書かれています。

紙は透かし模様入りや、銀箔入りであったり、ご自身の好きな色を周囲に差し入れたり、こだわりが見える。さらには、丈夫にしたいからと、少し前よりラミネートをしている。

「いつから書きはじめたのですか？」と何うと、「そうね、書道に触れたのは、宮女に通っていた頃かしら。書道の部屋があって自由に書く事が出来たので、よくその部屋に行ってたかな・・・好きだったの」と、女学校時代を、きらきらした少女のような目で振り返っておられた。「実際に習ったのは、61歳の時。大宮公民館の習字教室にも入ったし、NHKの文化センターの書道教室で、かなの書道も習いました。」

頼さんは5～6年前から、童謡や叙情詩を書きはじめられたそうで、一番好きな歌は『ふるさと』だそう。

「今の歌はテンポが速くて嫌ね。でも良い歌詞だったら好きよ！『川の流れるように』とか、『いい日旅立ち』とかも良いわね。これから書いてみようかしら」

頼さんは、季節に合わせて歌詞を書かれる他、心に留まった素敵なことにも敏感に反応して、これからも書いていかれるのでしょうか。（祇園デイサービスセンター 神毛・相川）



頼ミチさん

コラム

山口 澄夫

『八紘一宇の塔とオリンピックについて』

宮崎がオリンピック聖火リレーの日本の起点となった昭和 39 年 9 月 9 日の前夜祭と翌 10 日に出発式が塔の前で厳かに行われたことはもう昔のことで忘れ去られたことでしょう。

スポーツを通じて世界はひとつというのがオリンピックのスローガンである。世界のすべてを一家のように同じくというのが八紘一宇の文字の本義である。当時アメリカの指示によりこの「八紘一宇」の文字が外部から見えないように塗りつぶされてしまいました。当時この式典に参列した日本人はことごとく残念に思ったことでした。その残念さは月日の経つにつれて日本の悲願となり「八紘一宇」の文字は今は表に出て燦然と正面に輝いて観光客に日本の平和をアピールし続ける平和の塔となっているのです。



★「八紘一宇」の意味 ★

雨の下をおおいて家とせむまたよからずや

という古歌によるといわれている。

第34回神宮西文化祭

3月4日に神宮西町の文化祭が行われました。多くの方々に素晴らしい作品を出展していただきました。

また展示品の他、外では地区の方々と共に当院スタッフも参加させていただき、焼そば・ぜんざい・地鶏の炭火焼なども振る舞い大盛況でした。

とても楽しい時間を過ごすことができました。 ありがとうございました。



新人紹介

Spring



作業療法士

日高 里美

3月1日に入職しました
病院、訪問リハビリでの経
験を活かして、よりよい成
長をしていけるように頑張

ります。明るく元気をモットーに！仕事に取り組
んで行きたいと思います。宜しくお願いします。



介護福祉士

山本 ゆきえ

利用者の皆様に安心し
て楽しい時間を過ごし
ていただけるように精一

杯頑張りますので宜しくお願い致します。



理学療法士

仁井 誠

はじめまして。東京か
ら来ました仁井と申しま
す。お酒が好きなので、
美味しい飲み屋さんとか

あれば教えて下さい。これからも宜しくお願い致
します。



受付事務

河野 純子

4月16日から勤務
させていただくことにな
りました。1日でも早く
仕事に慣れて、笑顔を絶

やさず頑張っていきたいと思います。よろしくお
願い致します。



厨房

井野 多加子

安心安全な美味しい食
事をいつも心がけて調理
していきます。よろしく
お願いいたします。



介護福祉士

河原 良尚

レクレーションなど
の活動を通して、笑顔で
楽しい時間を一緒に過ご
したいと考えています。

「今日はデイケアに来てよかった」と言って頂
けるように頑張っていきますので宜しくお願い
致します。



厨房

内栢保 法子

3年ぶりに復帰しま
した。利用者さんに喜ん
でもらえるような食事が
作れるよう頑張ります。

よろしくお願いします。

よろしく
おねがいします



ソフトボール

ディケア 江本 憲明

僕は小学生の頃と高校の頃にソフトボールをしていました。小学生の頃は、ピッチャーで時々外野を守っていました。打順は7番で当たり損ねの幸運なヒットが多かったので、「ラッキー江本」と言われていました。

中学校ではソフトボール部が無かった為、バレー部に入部しましたが、高校でソフトボールがやりたくて、宮崎日大高校に入学しました。

ソフトボール部のチームメイトは、中学時代に野球をやっていた人が多く、僕よりも上手い人ばかりで、続けていけるか不安でしたが、先生やチームメイトの支えもあり、ピッチャーで九州大会に2回出場する事ができました。

試合中は、いつもチームメイトから「ナイスピッチング」とか「ナイスコース」等と声をかけてもらい、リラックスできたと思います。また、先生から「試合に負ける事は悪い事ではない。でも気持ちで負けていたら、勝てる試合も勝てない。」といわれた事が、いまでも印象に残っています。

現在も社会人のチームで試合に出たり、神宮西地区の試合にも出させて頂いていますが、ソフトボールを通して、沢山の事を学んだ様な気がします。自分の体が続く限り、プレーしていきたいと思います。

編集後記

4月というと、「入学式」を連想してしまいます。

巷には、真新しいランドセルに、黄色いカバーをつけた新1年生が元気よく登校している姿を目にします。無邪気で一生懸命で元気の良い子供達の姿や声を聞いていると、おもわず微笑んでしまいます。

そんな朝の一時に、「よ～し。今日も頑張ろう。」と思い仕事に向かう毎日です。

子供達に、すがすがしい気持ちだけでなく、一日の活力ももらっているのだなと感じているのは、私だけではないのでは……。 (甲斐)

